

“非常事態のいまだから”

深刻なコロナ対応には《経験と実績》



託したいこれからの飯田市

コロナウイルス感染症問題は極めて深刻で、第1波が収束方向にあっても秋冬にかけて第2波が到来する確率は70~80%と言われております。

このような100年に一度の異常事態の時、行政能力未知数の新人市長では不安です。ここは経験豊富で実力派市長・牧野にコロナ対策本部長として行政手腕を発揮してもらわなければなりません。

事実、牧野市長はコロナ感染防止のための的確な指示を各部署に出し、五月初旬の連休中には防災行政無線を使い、各地域の市民に外出自粛などの注意事項を呼び掛け、その効果は如実に表れています。

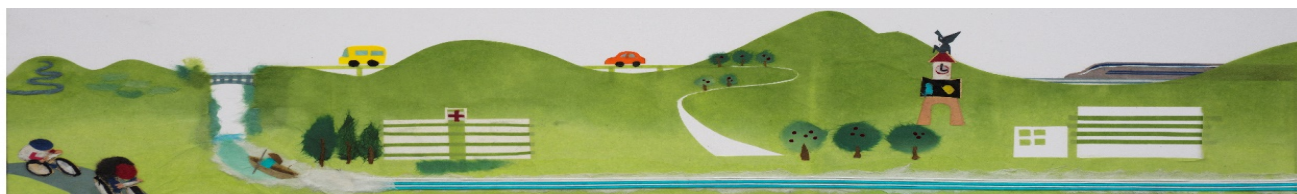
① コロナの影響で経済的ダメージを受けた事業者に対し、家賃補助金（家賃の80%を2カ月分支給）を給付すべく、全国の他の市に先駆けて発表しました。

② コロナウイルスの影響で売上げが50%以上ダウンした事業者すべてに10万~20万の給付金を、又売上げが80%以上ダウンした観光関連業者、ホテル~旅館業者等には50万~100万円の給付金を出すことを発表致しました。

③ コロナ専門外来の検査を飯田下伊那統一でドライブスルー方式で実施、医師会の全面協力を得て県下一早く出来上がりました。

このように緊急時における弱者救済の手を幅広く差し伸べています。

異常事態が今後も予想されているなかで、コロナ対応、また来るべきコロナ第2波に備えるためにも牧野市長の続投は必須であると考えます。



第3弾として、飯田商工会議所との共同で経済対策として、

プレミアム商品券を発行します

☆10,000円で15,000円の買い物ができます。☆

市民の方から応援メッセージを頂きました

皆様に知ってほしい3つのこと

1. 牧野さん まとめの5期へ

飯田市は人口順で長野市、松本市、上田市に次ぐ県内第4位の都市で、1市13町村で構成する南信州の中核を担っています。その飯田市が産業、福祉、教育など様々な分野で大きな政策を実現したり、リニア駅関連の難しい課題を解決するには長い期間が必要でした。牧野さんは、それらのまとめを5期目で行います。

2. 首長は飯田市のトップセールスマン

全国市長会で副会長を務める牧野さんは、上京中も飯田のPRや飯田に協力してもらえ人脈づくりに励んでいます。また、内閣府、総務省、文部科学省から招かれた懇談会では、飯田市での事例をもとにした提案も行いました。なお、市長が飯田のために全国を回るのであれば、県や周辺町村との協議は副市長が務めることになります。

3. 牧野さんが最初に目安箱を置いた

目安箱とは、徳川吉宗のとき、一般庶民の幕政についての意見をもとめるために設置された投書箱のことです。牧野さんが市長に就任した16年前「職員に面と向かうと言いつらい人もいるのでは」と始めたのが目安箱に当たる「やрмаいか提言」です。現在も各地区の自治振興センターや体育施設に置いてあります。今でこそメールが主流ですが、メール以前の意見についての返答は封書で届くというものでした。市民との対話が少ないという人もいますが、次のスケジュールに余裕があれば市政のほかに世間話をしますし、子供とも遊んでくれます。

投稿 鼎 森本

『ホームページ』＝牧野光朗（みつお）後援会でアクセスしてください

下伊那の町村長他多くの皆様方の応援メッセージが動画で見られます。

まだまだコロナウイルス感染症問題は予断を許さない状況下ですので、大規模集会は控えざるを得ない中で、各ブロック毎に支部長会・女性部会等を開催してきています。今年は、市政懇談会も各地区で人数制限で行われることもあり、「市長の生の声」を聴く機会を増やして激励して頂ければと考えていますので、ミニ集会等にお呼び頂ければと思います。

